



学校だより

子供の「やる気」を育てます

6月号 令和6年5月31日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原 之雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya1/>
e-mail e-houya1@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小ホームページ
QRコード



与えられること、やってみること

校長 原 之雄

皆さんは、東京都の最高峰は何という山かご存知でしょうか。雲取山という山で、標高2017mです。これはあの有名な谷川岳を上回る高さです。その頂上は、累々と続く奥多摩の山並みの中の広場といった風情で大変気持ちのよいところです。日本百名山にも数えられています。

この雲取山に登ろうと思ったら、登山口から標高差1500m以上を登らなくてはなりません。なかなか大変ですが、

6年生なら登れるかもしれません。「さあいいか、東京都最高峰に登るぞ!」「靴は滑りにくい登山靴で、持って行くものはこれとこれ、リュックサックは25Lのものを準備!」「登山口に着いたら準備運動!1, 2, 3, 4!」「迷子にならないように手をつないで!出発!」「45分歩いたから5分休憩!水分補給して!」「このためにトレーニングしてきたから何とかなる!」「さあ頑張れ、もう少しだ!」・・・こうしてなんとか頂上に到着しました。この登山に価値がないとは言いません。苦しくても頑張ってやり遂げたことは自信につながりますし、とにかく頂上を踏んだのですから。

ある子供は、一枚の地図から雲取山の存在を知ります。「ここに登りたいな!」「どんなルートがあるのだろう?」「尾根を登るルートが3本、他に沢を登ることもできそうだ」「沢は途中で滝があったりして特別な装備と技術が必要かも...」「尾根ルートのここなら今の自分にもできるかもしれない!」「登るのに必要なことは何かな...?」「よし、計画を立てよう、体を鍛えよう!」・・・秋も深まった時期にやっと頂上に向けて出発しましたが、思った以上に大変で日が暮れやむなく途中下山。結局頂上を踏んだのは中学生になってからでした。

この2つの登山をどう思われるでしょう。効率を考えれば前者の方がよいのでしょうか。しかし先を考えた場合どうでしょう。前者の子供はもっと高い日本アルプスには登れるのでしょうか。よい指導者に恵まれれば可能でしょうが、さらに高いヨーロッパアルプスでは?教えられた以上のことは難しいかもしれません。後者の子供はどうでしょう。確かに登ったのは1年遅れました。しかし自分で考え、それを実現した(解決した)経験があります。この経験をベースにもっと高い山にチャレンジできるよう自分で自分を成長させることができるかもしれません。

世界屈指の先進国として成熟社会を迎えた今、必要となるのは後者の教育です。自分で考え、判断し、自分を成長させていく力がとても大切です。そしてこの力は学校だけでなく、さまざまな機会を通して培っていくものだと思います。

大人がやった方が早く、仕上がりも確実ということがご家庭でもたくさんあると思います。しかし、そこであえて子供にやらせてみるということが、子供の成長にとって大切なかもしれません。まず、自分でやってみる・・・ここからスタートしたいものです。